

# 言文だより

夏の号  
No.3  
2004年8月発行

九州大学大学院言語文化研究院

言語文化研究院広報委員会 genbun@flc.kyushu-u.ac.jp

公開講座「学際領域講座」

## 「9.11」後の世界

— 新たな国際協力の在り方を考える —

8月28日から10月16日までの毎週土曜日、「9.11」後の世界 — 新たな国際協力の在り方を考える — と題する公開講座が、九州大学記念講堂会議室において開催されます。この学際領域講座は、言語文化研究院の他、工学研究院、法学研究院、比較社会文化研究院、人間環境学研究院のスタッフが講師を務め、「国際協力」を学際的に取り上げて、様々な角度から国際協力が真に有効になるための方策を受講者とともに考えます。

講義日程	講 師	テ - マ
8月28日	坂口晴一郎 (工学研究院教授)	Eラーニングの未来 — 新しい形の国際協力の模索 —
9月4日	藪野 祐三 (法学研究院教授)	ローカル・イニシアティブ — 地方自治体の連携の先にあるもの —
9月11日	小松 太郎 (言語文化研究院助教授)	ポスト・コンフリクト社会における教育復興 — バルカンそしてアフガニスタン —
9月18日	李 一清 (言語文化研究院助教授)	宗教間の対話は可能か (英語による講義)
9月25日	清水 展 (比較社会文化研究院教授)	先住民族の人権 — NGOのネットワークを通して見えてくるもの —
10月2日	稲葉美由紀 (言語文化研究院助教授)	社会開発とは — その恩恵を受ける人、働く人 —
10月9日	竹熊 尚夫 (人間環境学研究院助教授)	民族共生と国家開発 — その社会・教育面からの考察 —
10月16日	河野 俊行 (法学研究院教授)	文化の多様性と世界 — 文化遺産の概念について —

8月28日のみ箱崎地区21世紀交流プラザ会議室で開講します。

場 所 九州大学50周年記念講堂会議室 4階大会議室

問い合わせ先 yamakuni@flc.kyushu-u.ac.jp

## 第2回「国際社会開発」に関する研修会

言語文化研究院では、国際協力をはじめとする社会開発の分野で活躍する人材の養成をすることを目的として「国際社会開発学府」の開設に向けた準備を進めています。その一環として第2回「国際社会開発に関する研修会」を5月20日(木)に、六本松キャンパスにおいて開催しました。講師の英語による発表に続いて、国際社会開発についての活発な討論が行われました。

### 研修会概要

発表者： 李 一清 (イ・イル チョン) 言語文化研究院助教授

テーマ： International Social Development Project Process and the Faculty of Languages and Cultures (国際社会開発プロジェクトと言語文化研究院)

現在、毎分ごとに世界の人々の17人に1人が、飢餓による病気で亡くなっています。このような現状を踏まえて、「社会開発プロジェクト」は、貧困と飢餓に陥っている地域の人々の苦しみを取り除くことを目的としています。研修会では、国連社会開発研究所コンサルタ

ントを務めた発表者によって、どのように社会開発プロジェクトが立案され実行されるか、また、九州大学言語文化研究院のスタッフの有する専門知識、とりわけ外国語の専門知識が、社会開発プロジェクトにおいてどのように生かされるかが示されました。



### 今後の予定

10月14日(木)

第3回「国際社会開発」に関する研修交流会 (16:30より、六本松第1会議室)

2005年2月

第1回「国際社会開発」シンポジウム (九州大学国際研究交流プラザ)

## 小松太郎の「カブールだより」第1信

お変わりありませんでしょうか？ 私は無事に(?)アフガニスタンに到着し、仕事に取りかかっています。こちらは気温が37度くらいです。この2ヶ月はちょうど砂塵が舞う時期で、あたり一面、真っ白になってしまうこともあります。標高が高いため、到着した日は貧血気味になり、食べ物で早速胃をやられました。なんとか生きています。JICA 安全課からは軍事施設に近づかないように言われましたが、私が働く現地教育省のオフィスは米軍司令官と内務省大臣の家に挟まれています。アルカイダの「停戦期間」が今月15日に切れることもあり、その後かなり緊張することが予想されますが、なるべく動き回らないようにしています。

食べ物はやはり肉中心です。ケバブというと剣のような長い鉄棒にささった肉が出てきます。酒は基本的にはありませんが、標高が高いため、飲むとすぐに酔っ払うか気分悪くなってしまいます。因みに、カブールには中華レストランもあります。この前行ったら、宣伝チラシに「20%ディスカウント！ 警備万全」と書いてありました。実際、入り口にはカラシニコフ銃を持ったムジャヒディンのような人間が数人立っていました。

自分の仕事とは直接関係ありませんが、8月にはカブール教育大学で日本の文化・教育について一回講義することになりました。アフガンの大学生が考えていることを知る良い機会なので楽しみにしています。

(2004年7月7日)

小松太郎助教授は文部科学省の依頼により、アフガニスタン教育省の教育アドバイザーとして、7、8月の2ヶ月間、同国の教育復興政策の立案に協力しています。「カブールだより」と題した小松助教授のカブール滞在記は、アフガニスタンの生活と文化という、私たちにとって接する機会の少ない異文化への扉であると言えるでしょう。これまで届いた「カブールだより」は、すべて以下のURLで公開されています。興味がおありの方は、是非ご覧下さい。

<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/kabul.html>



## ミヒエル教授にドイツ連邦共和国功労十字勲章

ヴォルフガング・ミヒエル教授が、日独文化交流に対する貢献を評価され、ドイツ連邦共和国功労十字勲章を受章しました。受章の対象になったのは、17世紀の日本における西洋外科流派の祖であるカスパー・シャムベルゲルおよび、17～18世紀の日本研究家エンゲルベルト・ケンペルについての研究業績です。



## 総合科目「英語で語る世界の文化」

九州大学中期計画の「国際化への対応能力を育成するため、英語による授業科目を開講する」という趣旨にのっとり、言語文化研究院では、本年度、「英語で語る世界の文化」を開講しました（オーガナイザー：徳見道夫教授）。

この講義は、日本人をはじめとするノン・ネイティブの教員が英語を駆使して自分の思いを発信すれば、学生に大きな刺激を与えるのではないかという考えにもとづいて開講されたものです。さらに、学生に多様な視点から世界を見渡して欲しいという観点から、言語文化研究院の英語教員だけでなく、工学研究院、熱帯農学研究センターおよび高等教育総合開発研究センターの方々にも講義をお願いしました。講義は大変好評で、毎回、200人近くの学生が熱心に聴き入りました。

日程	講師	テーマ
4月14日	太田 一昭（言語文化研究院教授）	シェイクスピア『ロメオとジュリエット』
4月21日	小松 太郎（言語文化研究院助教授）	バルカン半島文化事情
4月28日	李 一清（言語文化研究院助教授）	マレーシアおよび英国の文化事情
5月12日	山下 邦明（言語文化研究院教授）	国際協力について（1）
5月19日	小松 太郎（言語文化研究院助教授）	コソボ文化事情
5月26日	渡部 正夫（工学研究院助教授）	米国の大学のシステム
6月2日	緒方 一夫（熱帯農学研究センター教授）	熱帯アジアの自然と文化
6月9日	高橋 勤（言語文化研究院助教授）	アメリカのアーミッシュについて
6月16日	志水 俊広（言語文化研究院助教授）	ハワイの文化事情
6月23日	田中 俊也（言語文化研究院助教授）	アングロサクソン文化としての英語
6月30日	井上奈良彦（言語文化研究院教授）	ディベートの方法
7月7日	山下 邦明（言語文化研究院教授）	国際協力について（2）
7月14日	淵田 吉男（高等教育総合開発研究センター教授）	海外の諸事情